



釧路西ロータリークラブ会報

会長方針「誰もが個性を楽しめる社会を」

本年度 第15回(通算第2428回)

プログラム「平和構築と紛争予防月間」

担当 国際奉仕委員会

■2025年2月3日(月) 12時30分～ ■ANAクラウンプラザホテル釧路

【会長】小栗 直也 【副会長】岡安 正人 【幹事】杉野 史和 【副幹事】平 信二・佐々木 進

★ 点鐘 小栗 直也 会長

★ ロータリーソング
「君が代」「奉仕の理想」



ソングリーダー
櫻田 美香 君

さて、来週2月15日ですが、「第42回釧路西ロータリークラブ会長杯バレーボール大会」があります。今、西クラブは柔道とバレーボール、これしかやっていないので、そこは力を入れてやっていきたいなと思っていますので、是非是非、皆さん参加の方よろしくお願い致します。

★ 会長挨拶 小栗 直也 会長



皆さん、こんにちは。昨日、節分でしたが豆まきはされたでしょうか？ 私もやったんですが、2月3日が節分だと思っていたのが、今年は2月2日ということで、30年くらいに一度は2月2日ということで、天文学的なことで1日調整が入るみたいです。

★ 幹事報告 杉野 史和 幹事



- ・2月のロータリーレートは1ドル154円です。
- ・RI日本事務局より「財団室NEWS 2月号」が届いております。
- ・釧路、釧路北、釧路東、釧路南、釧路ベイ、浜中 各ロータリークラブより2月の例会プログラムが届いております。

【本日のプログラム】

「平和構築と紛争予防月間」

担当 国際奉仕委員会



平 信二
副幹事

本日、国際奉仕委員長の三木会員が欠席のため動画を流して下さいと言われております。パレスチナ問題のユーチューブ動画を視聴したいと思います。



参考 YouTube

<以下3名を色分けにて表記しています>

ダウード・アサドさん(ディール・ヤシン虐殺事件生存者)

マハ・ナサーさん(アリゾナ大学現代中東史イスラム教研究准教授)

ファリド・アブテル＝ヌールさん(サンディエゴ州立大学政治学教授)



私の村はとても美しい村だった。村には山があってブドウとイチジクの木でいっぱいだった。エルサレムへ通じる街道沿いにあった。

これは 1948 年に起きた物語

人口は 750 人ほど。全員知り合いです。大家族で幸せに暮らしていた。まさか虐殺に合うなんて・。歴史の汚点だ。

その汚点は入念に隠蔽され意図的に歪められ西洋社会では“なかったこと”に

私の村は見せしめだった。

この村の他にも各地で虐殺は起きていた。ナクバ(大惨事)と呼ばれる悲劇が始まった。一連の壊滅的な出来事の中で何十万人ものパレスチナ人が、故郷から暴力的に追放されイスラエル建国の犠牲になった。

1948 年 5 月に新しいユダヤ人国家イスラエルが血の海で誕生した。パレスチナは様々な国の支配を受けてきた。しかし何百年とパレスチナ人が住んでいた多くの村や町が栄えていた。例えばエルサレムは、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の聖地である。



オスマン帝国後期にパレスチナ人の大半はムスリムで少数だがユダヤ教徒とキリスト教徒もいた。しかし宗教を問わず、この地域の人は“アラブ人”と呼ばれていた。文化は違えどアラビア語を話すからだ。



パレスチナ人は長い間、自分たちのことを“アフル・ファラスティーン”と「パレスチナの民」と自称した。特有の方言が生まれ独自の料理や衣装を作り、家族の絆を築いてきた。



しかし第一次生対戦がはじまると、この地の支配をめぐって対立が起こる。盛り上がりを見せるアラブ人の政治運動。オスマン帝国の支配を脱しアラブ統一国家の成立を目指す勢力。そして「シオニスト」と呼ばれる政治勢力、ユダヤ人国家の建国を目指す人々。“シオニズム”が生まれた背景には欧州とロシアでのユダヤ人差別があった。

19 世紀末と 20 世紀初頭に反ユダヤの流れが激しい暴力に発展した。シオニストはウガンダやアルゼンチンを検討した後、宗教的にゆかりのあるパレスチナに国を作ることを決めた。しかし第 3 の政治勢力が登場する。英国である。

中東での勢力拡大とインド貿易のルート確保が狙いだ。第一次世界大戦で英国とアラブ側は利害が一致した。協力しオスマン帝国に対抗。1916 年、英国がアラブ側と書簡を交わす。オスマン帝国の打倒にアラブが協力し英国が経済などの利権を確保する。見返りに英国はアラブ国家の樹立を支援、独立を承認すると約束した。

アラブ人はすぐに活動を開始。英国の侵攻はスムーズに進んだ。しかし、英国は翌年、別の宣言を発表。アラブ人は裏切られる。

1917 年アレンビー卿が聖地を征服。パレスチナにユダヤ人の“ナショナルホーム”が誕生

先住のパレスチナ人に相談することなく英国はバルフォア宣言を発表。ユダヤ人のナショナルホームをパレスチナに作るという内容である。英国はアラブ統一国家の建国を支援せずシオニストのために土地を確保すると約束した。背景には戦略があった。英国はパレスチナでの影響力を保とうとした。



表向きは英国による民族自決の支援だった。ただし、その民族はまだその土地に住んでいなかった。

バルフォア宣言では多数派のアラブ人を「非ユダヤの共同体」と表現する。市民権や信教の自由は

認められるが政治的な権利はなかった。第一次世界大戦の終結から数年後、英国は委任統治の名でパレスチナを支配。

バルフォア宣言を実行に移しユダヤ人の入植を後押しする。1922 年から 1931 年にユダヤ人は倍増しシオニスト運動が加速する。こんな言葉が流行する。“民のいない土地に土地を持たない民を”

欧米の指導者はこの言葉をこう解釈した。何世代もパレスチナに住んでいた人々は簡単に移動させられると、先住の民はその土地とつながりがないと考えた。

当然そこは“民のいる土地”だった。1931 年のアラブ系住民は 85 万人を越える多数派だった。このころヒトラーとナチ党が台頭する。

“ヘイトが吹き荒れました”

ユダヤ人は欧州から急いで脱出。パレスチナにかつてないほどの規模でユダヤ人が押し寄せる。土地を巡る暴力事件も発生。ユダヤ人は豊かな土地を多く購入し小作農家が土地を追われる。非常に多くのアラブ系パレスチナ人が土地を失い危機に陥る。英国の占領軍とユダヤ系入植者への反乱が起こるが英国はこれを鎮圧。

英国はパレスチナでの反乱を抑えるために、インド全土の駐留兵より多くの兵力を投入した。

指導者を含む数千人のパレスチナ人が殺害される。英国は鎮圧のためシオニスト民兵に多くの武器と訓練を提供。しかし反乱は継続。パレスチナ人の反乱の激化を抑えるため英国はユダヤ人の移民の制限を開始。しかし過激派シオニストが反発してテロを実行。1947 年それまで何十年もシオニストとアラブ人を操り、この土地を支配してきた英国は、ついに逃げ出した。この問題を投げ出した。



“国際連合にパレスチナの問題が持ち込まれた。近年この小国は無秩序、血流の舞台になっていた。

”国連という組織が出来たことだし、そこにパレスチナの問題を丸投げしてしまえ・・・こうして問題の解決は国連に委ねられた。原因は英国だったのに。

国連の特別委員会は土地の分割を提案。ユダヤ人の国家とアラブ人の国家、エルサレムについては国連の管理下に。これが 1947 年の分割案。パレスチナ人は驚いた。



受け入れがたいものだった。当時のムスリムとキリスト教、ユダヤ教の人口比はほぼ 2 対 1 だった。

分割案では半分以上がユダヤ国家。しかも肥沃な土地が多かった。

実利的な観点から見てもアラブ人たちにとっては不公平に映った。

問題はそれだけではない。ユダヤ国家の領域内には数十万のアラブ人が長年住んでいた。多くがムスリムやキリスト教徒である。

道徳的な観点からも数十万いるアラブ人を自身の故郷でマイノリティにするという計画には不正義・不公平と捉えられた。

1947 年国連は計画を投票にかける。ホロコーストの影響と米国とシオニストによるロビー活動の結果、分割案は採択される。“ついに 1 万平方マイルの聖地が分割される”英国はパレスチナの委任統治が 1948 年 5 月 15 日に終了すると発表。しかしパレスチナ人は分割案に反対し続けた。

分割が実施されたら恐ろしいことが起こる気がしていた。



1947 年の時点でシオニストにはよく訓練された複数の民兵組織があった。例えば最大規模のハガナー、そして過激派のイルグンなど 3 月 10 日、英国の委任統治が終わる 2 ヶ月前、ハガナーはダレット計画を開始。通称「プラン D」目的はユダヤ国家内で権力を掌握すること。そして国境外にあるユダヤ集落を守る事。しかし、ほとんどの作戦が実行された場所はアラブ側の地域だった。

ハガナーや過激派の組織が各地で指揮を執った。エルサレムへの道の確保と同市の包囲を目標とした。作戦書にはこう書かれていた。アラブ人の村を破壊せよ。火をつけて爆破し地雷を設置せよ。掌握しにくい人口密集地を特にねえ。抵抗する者がいたら国境外へ追放せよ。村々を無人にせよ。主要な道路沿いにあるアラブ人の村を占領し支配せよ。特に有名になった虐殺事件の舞台がディール・ヤシン村である。



私の故郷ディール・ヤシン村はエルサレムから西に 6 キロほどの距離だった。

91 歳のダウート・アサド(ディール・ヤシン虐殺事件生存者)は虐殺の日に村にいて 18 歳だった。

2 日連続で武装トラックが夜通し走っていた。トラックのライトがうごめいていた。不吉な予感があった。私たちの村に何かが起こると思った。

1948 年 4 月 9 日、過激派のシオニスト民兵はプラン D 実行の為、ディール・ヤシンに迫った。近隣のユダヤ人村との平和協定は無視された。

金曜日の朝、攻撃がはじまった。おじ達が撃ち返した。私も装填を手伝い撃ち返した。2 時間半ほど戦った。私のおじが見つかり壁に追い込まれ、非道にも 8 発の弾丸を打ちこまれた。祖母は私の母に会うため村に向かっていて。その道中に撃たれた。私の弟のオマールは撃たれた祖母の肩から落ちた。地面はコンクリートだった。ダウードは塹壕を通過して逃げた。ここを通過して逃げた。エルサレムまでは 4 時間かけて歩いた。

今日までイスラエル軍はディール・ヤシンに関する画像や報告書の多くを公開禁止にしている。しかし国連の報告書は残虐行為を詳しく記録している。女性や子供も裸にされ一列に並べられ撮影後に虐殺された。子供や高齢者を中心に 100 人ほどが村で殺害された。ダウードは後にエルサレムで妹や母など捕虜にされた村人と再会する。

母が聞いてきた。ラドワンおじさんは？ 撃たれたよ。おばあちゃんは？ 撃たれたよ。オマールも一緒だった。皆パニックだった。〇〇は？ 〇〇は？ 〇〇は？ 夢に見るんだ。あの時のことを。

ディール・ヤシン事件は広範囲に影響をもたらした。シオニスト民兵は事件をプロパガンダに利用した。噂を各地に広めた。土地を去らなければ同じことが起きるぞというメッセージだった。

女性がレイプされたとか、子供が殺されたとか、そういう話が広まるとアラブ系の人々は恐怖し、故郷から避難した。

ユダヤ人はハイファ市のアラブ軍を取り囲んだ。ディール・ヤシンの占領後、シオニスト民兵はハイファやヤッファなど主要な都市を制圧し何百もの小さな村や町も掌握。数十万ものパレスチナ人が故郷を終われ難民として周辺国に流入した。プラン D はユダヤ人国家を作るための民族浄化の基本計画だった。

そして 5 月 14 日英国の委任統治が終わる前日にシオニストはイスラエルの建国を宣言。



必然かつ歴史的な権利に基づき国連総会の決議の効力に従ってここに宣言する。ここエレッツ・イスラエルにユダヤの国を打ち立てイスラエル国と名づける。

しかし、イスラエル建国後もナクバは続く。パレスチナ難民が押し寄せたアラブ諸国は、直ちに宣戦布告した。

アラブ連合軍が集結し難民の発生を止めるよう求めている。

数か月に及ぶ戦闘の末、アラブ軍は敗北。戦争中もパレスチナ人は殺され、次々と難民になった。家に戻るつもりで避難した人が多く持ち出し荷物は少なかった。

多くの人が自宅に鍵をかけポケットに入れて避難した。家に戻る意思があったから鍵をかけて家を出た。パレスチナ人の場合、難民の帰還は許されなかった。

帰ろうとする人達は撃ち殺されたシオニスト民兵は彼らが帰れなくなるよう村々を破壊した。帰還が阻止されナクバはさらに深刻になった。ナクバとは単に自分たちの家や国から追い出されるだけでなく戦後も帰還が許されない悲劇です。

パレスチナ社会は解体され破壊された。パレスチナ人口の半分以上が難民化し国を失い土地を奪われた。



イスラエルはその後、パレスチナからアラブの痕跡を隠し始めた。多く地名がアラビア語からヘブライ語に変わった。ある基金は大規模な活動を開始。破壊したアラブ人の村々の跡地を広大な森林やレジャー施設で埋め尽くした。

今では大きな松の森になっているがパレスチナ人は故郷を忘れてはいない。



ナクバの暴力で約 6 千人のイエラエル人が死亡。パレスチナ人の死者数は記録に残っていない。推定では 1 万 5 千人と言われる。ナクバがおわるまでに 75 万人のパレスチナ人が強制的に追放された。500 以上の村が破壊された。国連の分割案でイスラエルに与えられた土地は全体の 56 %だったが、ナクバによって支配地を 78%に広げた。これは占領下のヨルダン川西岸とガザを除いた全地域である。



現在では 85 %をイスラエルが支配。600 万人のパレスチナ人が故郷を終われ難民になっている。



5 月 15 日にイスラエル人が独立記念日を祝うとき、同じ日、パレスチナ人は抗議活動を行う。奪われた家を象徴する鍵のシンボルを掲げ帰還を祈りながら。彼らにとってナクバは歴史の 1 ページではなく今も続く悲劇なのだ。

夢に見るんだ。あの時のことを・・・。1948 年までは幸せな人生だった。故郷を追われるまでは・・・。

★次週例会の御案内

2 月 17 日(月) 18 時 30 分～

ANA クラウンプラザホテル釧路

「 クラブフォーラム 」 夜間例会
担当 青少年奉仕委員会

★ 点鐘

小栗 直也 会長